

平成30年産

一般慣行育苗ごよみ

JAふくおか嘉穂
飯塚普及指導センター

○早植、普通期育苗(25日苗、平床育苗)

特栽米は種子消毒・育苗中の肥料・農薬は使用できません

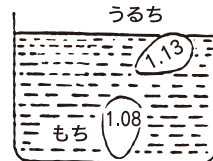
早植・普通期育苗

月日	は種前後日数	農家記入	主な作業	管理ポイント
5/6	-10		床土の準備	<ul style="list-style-type: none"> 山土の場合 1箱当たり床土4ℓ(2升3合)、覆土は0.9ℓ(5合)準備する。pHは5~6が適当。初穀くん炭を3分の1程度混ぜる。育苗肥料(4・4・4)を1箱当たり20g混ぜる。 合成培土の場合 1袋(20g)で6箱分使用する。
		/	塩水選	<ul style="list-style-type: none"> 種子は、10a当り3.0~3.5kgを準備する。 塩水選は、表1のとおり塩水をつくり、浮いた籾を取り除く。塩水選をした後は必ず水洗いをして塩分を落とす。
		/	種子消毒	<ul style="list-style-type: none"> 種子量と同量以上の薬液に24時間浸せきする。その間に3回程度混ぜる。
5/11	-5	/	浸種	<ul style="list-style-type: none"> 浸種に要する日数は5~7日間程度で、種子をはと胸状態にする。 催芽が十分でない場合と障害が出る恐れがあるので、催芽を十分に行う。
5/16	0	/	は種	<ul style="list-style-type: none"> は種量は、催芽籾で150g程度とし、できるだけ薄まきする。 は種時にタチガレースM液剤500倍とベンレート水和剤500倍液を1箱当たり500ml散布する。図1参照。 平床育苗で太陽シートを使用する場合は必ずベタがけとする。寒冷紗又は不織布の場合は、ベタがけ又はトンネル方式のいずれでも良い。 出芽後カビの発生が見られた場合、は種後14日までにダコレート水和剤500倍液を1箱当たり500ml灌注する。 被覆資材は、苗丈が4~5cm程度に伸びたら除去する。表-2参照。
5/21	5			<p>生産履歴は必ず記帳しましょう。</p>
5/26	10			<p>【良い苗の条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> 苗丈は13~15cmどまり、乾物量は22mg以上。 葉は広く、いきいきとした緑、太刀のようにそる。 第4葉が2cmほど出ている。 第1葉の葉鞘高は約5cm以内(葉耳までの高さ)で高さが揃っている。 不完全葉は4cmどまり、腰が太く巾が2mm以上あり丸みがあって、がっしりしている。 鞘葉は1cm以内。 メソコチルの伸びが少なくない(2mm程度)。
6/5	20	/	弁当肥	<ul style="list-style-type: none"> 弁当肥は、田植3日前に、水10ℓに硫安を30g溶かし20箱にジョロで散布する。散布後必ず葉水をかける。(苗の葉色が濃かったり、徒長苗の場合は、弁当肥は行わない。)
6/10	25	/	箱施薬田	<ul style="list-style-type: none"> 箱施薬については、稲作ごよみに沿って使用する ※育苗センターの苗は、すべて箱施薬(ツインターポフェルテラ箱粒剤)入りです。田植前に箱施薬を散布する必要はありません。 ※箱施薬剤の使用上の注意 ①施薬量は、必ず1箱50gにする。 ②箱施薬は育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、薬剤がおちつくように軽くかん水する。 ③田植当日散布の場合は、苗移動等で薬剤が落ちたりするので注意する。

表-1 水10ℓに溶かす量

	比重	食塩	硫安
うるち	1.13	1.94kg	2.68kg
もち	1.08	1.11kg	1.46kg

●生タマゴによる判定



種子消毒	2薬剤混用	倍率	種子の場合	葉量	希釈水量
	テクリードCフロアブル	200倍	10kg	100ml	20ℓ
	スミチオン乳剤	1000倍	10kg	20ml	20ℓ

図-1



表-2 被覆資材

	被覆日数	注意事項
黒色寒冷紗	8日程度	トンネルにして被覆する方が望ましい
不織布	7~8日	灌水時は不織布を取り除く
太陽シート	7日程度	降雨時・灌水時は取り除く(ベタ被覆の場合)